

うたがき

筑波大学附属図書館 ボランティア広報紙



第 30 号 2019 年 10 月発行

CONTENTS

①活動の場から

②新しい風

③フィールドワーク

2019.4月～2019.9月

④日本文化紹介

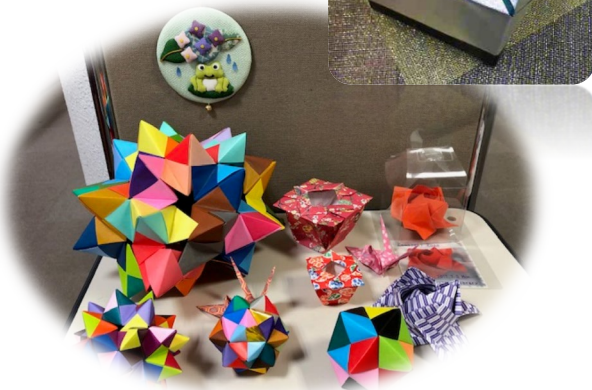
活動の場から

その5 ～日本文化紹介～

ボランティア活動の一つに日本文化紹介があります。留学生に日本の文化を紹介する活動で、これまで民話、カルタ遊び、ちりめん細工などを経て、現在は年に数回留学生を対象に折り紙ワークショップを開催しています。そのための勉強会を月1回開き、伝承折り紙のツルを始め、花小箱、小笠原雛や、折り紙作家創作の川崎ローズ、またユニットを折りそれを組み立てて作る多面体折り紙など、数多くの作品を制作しています。それらの作品は、季節に応じ図書館内に飾られています。

嬉しいことに、時にはワークショップに参加して折り紙に興味を持った留学生から、逆に海外の珍しい作品の折り方を紹介され、ワークショップで講習したこともあります。

昨今、“ORIGAMI”は世界の共通語になっています。日本でも海外でも一枚の紙を通じて心が通じ合う、折り紙という日本の文化を、思い出の一つとして留学生に持ち帰って頂ければと思います。



新しい風

今年度の新人さんに
活動の感想を書いて頂きました



留学生や障害学生などに耳を

大学は、若者たちが集まり、勉強し、社会人としての人生を準備する場所として古くから知られています。図書館ボランティアになって4ヵ月、資料探しなどの作業中気づいたのは、留学生や障害学生の話に耳を傾けることでした。国内の高校から入学する学生は仲間が既にいるか、仲間をある程度作りやすいですが、短期の留学生や障害学生は仲間が必ずいるわけではなく、気軽に話せる相手として、私は少し役に立てるようです。メンタリングの一種でしょう。(A.E)

図書修理半年間を体験して

毎週木曜日に中央図書館で図書修理をやらせて頂いています。最初は、全く経験が無かったので不安でした。しかし先輩の方々が、いつも優しくご指導して下さいるのでありがたいです。本の構造には、それぞれ部位名称がついています。また修理するには沢山の修理用道具を使用するので、その名称も覚えなければなりません。私はM先輩の隣の席に座らせて頂き、厳しくまた優しくご指導して頂いています。まだ半年ですが、いつの日か先輩の方々のようになれる日を夢見て精進しております。(I.A)



図書館ボランティアに参加して

月曜日午前中のカウンターを担当しています。学生や留学生は勿論のこと、一般の方々まで図書館にやって来ます。本や資料と一緒に探したり館内を案内したりしました。残念ながら、本や資料が見つからない時もありましたが、ちょっとしたやり取りをして探すことは楽しいです。先日、社会人入学をされた方が来館しとても懐かしい様子でした。カウンターを通して、そのような関わりがもててとても嬉しいです。まだまだ不慣れなので研修を重ねたいと思います。(Y.H)

図書館ボランティアに参加して

半年間の参加を通して今思うことは、私の場合「習って習って、慣れよ!」多くの事例を経験して経験値を培うことだと思っています。当初ボランティア参加の動機として、これまでの図書館の経験が役立てられればと思っておりましたが、「所変われば品変わる」の例えどおり戸惑う場面も多く、先輩の方々に助けて頂くことしきりでした。「習って」そして「慣れよ」を積み重ね、「答えられる」ボランティアとして習熟していきたいと思います。(K.F)

フィールドワーク

2019年度 4月~9月

筑波大学における障害のある学生への 支援体制を学ぶ

8月8日、フォローアップ研修として、障害のある



学生の支援について説明を受け、関連施設を見学しました。

本学は開学(1973年)以来多くの障害学生が在籍していま

す。当時は教員や学生達の個人的支援だったものが、次第に全学的支援となり、2007年“障害者の権利に関する条約”署名と時を同じくして、障害学生支援の要となる学内組織としての「障害学生支援室」が設置されました。そして2015年には「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACセンター)」として組織再編され、全ての障害学生に対し、修学上の支援、キャンパスの環境改善、キャリア支援、情報公開、啓発活動等を行い、一層活動の厚みを増して今日に至っています。

現在、本学には約130名(全体の学生の約0.8%)の障害学生が在籍、そのうちDACセンターに登録した学生に対し障害種別ごとに具体的な支援体制を構築しています。視覚・聴覚・運動障害学生の支援については、各々支援・準備室が設置されていて、支援担当職員、支援学生と障害学生でチームを構成、支援機器等

の管理、支援学生の養成・スキルアップのための勉強会、情報交換と交流、静養場所の提供など多方面の活動が行われています。

その支援活動の中核のひとつ、ピア・チューター制度（支援学生の配置）ですが、これは、支援希望の学生が養成講座を受講、支援技術を習得し、障害学生の修学サポートの中心を担うもので、2019年3月時点で257名の学生が登録しています。ピア・チューターの活動に対しては学長名の活動証明書が交付され、大学から謝金も支給されます。各支援室ではこのピア・チューターの募集、養成にも力を入れています。

視覚障害支援・準備室では、点字・音声化等専用ソフトの入っているPC、ディスプレイ、スキャナー、コピー機などの説明を受けました。また、この研修のために在室いただいた院生さんの、音声理解と点字利用などについてご自身の経験を踏まえたお話に深く感心し、同じく在室のピア・チューターさんが、図表を障害のある人が理解できるようPC画面とにらめっこで作業されている様子にも大変驚きました。

DAC センターの取り組みはより活発なものになっていくことでしょう。私達ボランティアも全ての学生が安心、快適に学生生活を送れるよう微力ながらお手伝いしていきたいと気持ちを新たにしました。

最高裁判所図書館見学



本年度の自主研修は、普段なかなか目にすることのできない最高裁判所と「裁判所唯一の図書館として、全国の裁判所に対し、裁判に必要な資料を

提供するほか、国会図書館の司法部門の支部図書館として図書館奉仕を行う法律専門図書館」（最高裁HPより）である最高裁判所図書館を見学できる興味深いものでした。

図書館のエントランスのホールは吹き抜けになっており、2箇所の壁にかかる堂本印象による聖徳太子をモチーフにした3枚（誕生、巡行、憲法宣布）の大きな作品がまず目を引きまします。旧最高裁の大法廷壁画だったそうです。法廷には池大雅・河合玉堂・村上華岳の作品をタペストリーにしたものがかけられていると

のこと（今回見学した小法廷は川合玉堂のものでした）。さすが最高裁判所、芸術への目くばりも怠りないものでした。また、ホール内のガラスケースには「五榜の掲示」の高札の実物、明治文庫の一部、大津事件関連資料など。また日本近代法の父ボアソナードの胸像なども展示されています。

蔵書のうち、特に注目すべきは和図書では「明治文庫」、洋図書では「正求堂文庫」と少し前の広報誌（飯島彦安「私記最高裁判所図書館」『びぶろす』電子化23号、2004年）に書いてありました。「明治文庫」は全国の裁判所で不要になった幕末・明治・大正初期刊行の法律書を引き取って保存したもの、「正求堂文庫」は増島六一郎旧蔵の英米法関係コレクションとのことです。

利用については、プロを対象とした特別利用者のほか、18歳以上なら一般利用者として学術研究を目的とした利用が可能です。

夏の終わりの一日、永田町散歩もでき、有意義な研修となりました。

～おりがみ講習会～

“川崎ローズ”

6月13日（木）、中央図書館にて講習会を開催しました。今回のテーマは折り紙作家の川崎敏和さんが考案した川崎ローズ。参加者は総勢21名でした。

折り紙で作るバラの中でもかなり複雑で難易度が高く、私たちボランティアも勉強会を重ね、折り図を見なくても折れるくらいにまで腕を上げ、講習会に臨みました。参加者の方々もかなり苦戦しながらも、最後には皆さん完成し、満足げでした。

この講習会は留学生だけでなく、どなたでもご参加いただけますので、図書館のホームページをご覧ください。



主な活動・・・こんなことをしています

ボランティアは中央図書館と体育・芸術図書館で活動しています。活動時間は毎週月曜日から金曜日の10時から16時(午前のシフトは10:00～13:00、午後のシフトは13:00～16:00)です。
現在、つくば市及びその近郊の市民、約50名が活動しています。



総合案内

図書館利用者すべてに対する、館内の資料配置の案内やパソコンによる資料検索の手伝い。館内巡回。



2F



4F



利用環境整備(シェルフリーディング)

中央図書館及び体育・芸術図書館の書架の整理や、不明図書の探索、図書ラベルの補修。



美術展ポスター整理(体育・芸術図書館にて)

全国の美術館・博物館から送られてくる展覧会ポスターの掲示とデータベース化。



図書修理

専門的な製本技術を使った図書の修理。



見学案内

新入生、留学生、中高生、一般、海外からの見学者に図書館を案内する。



対面朗読

視覚障害者のための対面朗読。館内での資料探索の支援。



広報

広報誌「うたがき」、「図・ボラの会」会報の発行。



日本文化紹介

月1回の勉強会と、年3～4回の、主に留学生を対象とした折り紙講習会。新年かるた会。



園芸部

図書館入口にある花壇の整備と季節の花の植え替え



☆うたがきのあとがき☆

9月の台風15号は、現代社会の脆さをまざまざと見せつけた。停電が長期におよび、電燈はもちろんテレビも電話も使えなくなった。電気がなければ、電子媒体にもたどり着けない。しかし、紙に書かれた文献はいつでもそこにある。手を伸ばせば届く近さだ。あらためて、紙媒体の書籍の大切さを実感した出来事だった。

編集:筑波大学附属図書館ボランティア広報部
発行:筑波大学附属図書館
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-6055

開かれた大学図書館として広く学外の利用者の方々に開放しています。
詳しくは、<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/> をご覧ください。

* 筑波は、遙か昔に歌垣の習俗があった地。色々な人の声を聞き応え合うことで繋がり、発展を生み出すことを望み、広報誌「うたがき」としました。